

# 「子どもたちの笑顔のために」

研究委員会委員長 児玉明代



上高井  
教育会で  
は、平成  
二十三年  
度から信

州大学教育学部教授 伏木久  
始先生を中心講師として指導  
を賜り、研究を深めてまいりま  
した。

そして、本年五月の総集会で  
は、伏木先生より研究課題「子  
どもと共に創る授業の省察的  
実践」に迫るための五つのポイ  
ントについて全体指導をいた  
しました。



顔で友達と語り合いながら追  
究するのです。全体追究が教師  
側からの一方的なものになって  
いたことが反省されます。

「子どもたちの既有知識・経  
験の把握」「到達目標を子ど  
もと共に共通理解」「方法を  
子どもと共に考え合う」「成果  
と課題を子どもと共に分析す  
る」「次時の学習課題を子ども  
達の学びの中から取り出す」な  
ど、子どもと共に授業を創って  
いくことの大切さを改めて教  
えていただきました。

振り返ってみますと、私自身  
の拙い授業の中でこんなこと  
がありました。私が全体に話し  
ている時は、退屈そうな表情を  
していた子どもたちが、グルー  
プ追究になると、生き生きと笑

「子どもと共に創る授業」で  
は、子どもたちが意欲的に活動  
します。その授業づくりの成果  
は、学ぶ楽しさを感じている子  
どもたちの姿となって表れて  
きます。そして、そんな子ども  
たちの笑顔は、私たちの大きな  
喜びです。

# 仲間と共に

同好会会長 北村 雅



同好会  
は、文字  
通り「同  
好」の者  
が集い、  
自主的・主体的に研修を深め合  
う場です。

私が初めて、上高井の同好会  
にお世話になったのは、二十代  
の頃でした。先輩の先生から誘  
われて入会したのですが、同好  
会や飲み会の場を通して、多く  
のことを教えていただきました

# 「子どもの心を感じる会」

カウンセリング同好会長 長谷川貴美子

「表現は嘘をつかない。」  
同好会を長年ご指導いただき  
た故東城久夫先生のお言葉です。  
本人ですら自覚できない思いが  
「表現」の中に存在するのだと  
いうことで、東城先生は毎回口  
にされていたということ。

子どもの心を感じる窓口を広  
げるために研修を重ねてきた本  
会は、昨年度から「カウンセリ  
ング同好会」と一つになりました。  
「子どもの心に寄り添うために  
はどうあればよいか。」を考え学

た。特に、その先生ならではの  
「教材観」について、若気の至  
りで色々と意見したことにつ  
いて、丁寧に、そして分かりや  
すく教えていただいたことを、  
今でも覚えていています。そのこ  
とが、自分自身の現在の教材観や  
授業観になっていきます。多くの  
先生方と授業について語り合っ  
たり、教材について議論し合っ  
たりしたことは、とても勉強に  
なりました。

ある地区の算数・数学の同好  
ぶことを目途としていた同好  
会。今後はそれぞれの分野での  
財産をもとに活動の充実をはか  
っていきます。

具体的な活動は、特別支援や  
臨床心理の分野に造詣が深い諸  
先生をお招きして、「講演をいた  
だいたり、子どもの「表現」から  
「心」を感じる感性を磨く基礎  
的研修(箱庭、スクイグル、コー  
ラージュ等の投影法の演習)をし  
たりします。

目の前の子どもの発信をどう



## はじめに

この四月から豊丘小学校に赴任  
させていただきました。子どもと最初に  
出会った入学式、呼びかけや歌唱で  
の子どもたち一人一人の声のはり  
のよさに驚いた。連日の精一杯な声  
を出せる子ども達の姿に影響をあ  
たえられる。一つが、縦割り班活動だ  
と思われる。この場をお借りして、  
豊丘小の縦割り班活動を紹介させ  
ていただきます。

## 二 少人数のよさをいかした縦割り 班活動の紹介

この四月からの活動を見てみる  
と、班の顔合わせ(自己紹介・ゲー  
ム)、縦割り掃除、縦割り班カレ  
ーの三つの活動があった。  
本校では少人数ゆえに児童がお  
互いの名前を知っている。班の顔合  
わせでも、リーダーが名簿に頼らず  
メンバーの顔を見て名前を呼んで  
いる姿はとても自然で、こうした  
人間関係が自分を出せる安心感に  
関係しているように思われる。

# 本校の宝 68

## 全校登山

高甫小学校の全校登山は、  
昭和三十六年「春の遠足」が  
明徳山全校登山となったのが  
始まりである。その翌年(昭和  
三十七年)には、校歌が制定  
され歌の中にも全校登山のこ  
とが歌われるようになった。

高甫小学校 校歌(三番)  
朝夕仰ぐ 明徳に  
見せるこの意気 全校登山  
あすの日本を 担う子が  
なかよく鍛え のびてゆく  
高甫のほこり 元気なわれら

そして、平成十年からは、保  
護者・地域の方にも参加を得  
るようになり、途中悪天候の  
ため、中止となった年もあっ  
たが、今までもずっと続いて  
いる学校行事である。現在では  
児童の実態に合わせて一・二  
年生は竹の城址、三・四年生は  
大洞山、五・六年生は、明徳山  
に登っている。

年度が変わった四月から、  
保護者も地域の方も山の様子  
を気に掛けてくださり、登山  
の日までには子どもたちが安  
全に登れるよう道が整備され  
る。学校では準備の段階から、



鍋の底や周りに残ったカレーに、飯  
盒にこびりついたご飯を投入して  
鍋をひざで抱え込んで食べていた。  
その姿を  
見ていた  
班の子か  
ら「物語  
の絵みた  
い！」と  
いう声が出  
てみん  
なでちょ  
っと笑い、  
食べ終わ  
ったY君  
が鍋の煤  
で真っ黒  
になっていたのでまた大笑いをし  
た。後片付けでも一つの鍋の底を四  
人で見られた。「みんなで作ったカレ  
ーはおいしかった。来年もカレーを  
作りたよ。」二年生の子が最後の  
会で言った感想からも、カレー作り  
の楽しさはもちろん、一緒に活動し  
た仲間との協力、自分の仕事をやり  
遂げた達成感も目に見えない財産  
として次年度以降に引き継がれて  
いくように感じた。

## 三 おわりに

縦割り班の活動を見てきて、豊  
丘ならではの互いに名前を呼びあ  
える人間関係がもたらす影響の大  
きさを感じた。その上で、一人一人  
が自分の果たすべき仕事を理解し  
て実行していること、掃除やカレ  
ー作りを自分の力でやり遂げたこ  
う達成感を積み重ねていること、  
児童同士の伝え合いができてい  
ることがとても大切であることも見  
えてきた。現在築かれているよい  
関係を保ちつつ、より深くあたたか  
い人間関係作りや自主的な児童の  
育ちを目指していきたいと思う。  
(池田正幸)

## 高甫小学校



上級生が昨年の経験を活かし、  
山の様子や登り方の注意等を  
細かく下級生に伝え、当日は  
もちろんグループレイダーと  
なって下級生の面倒をみる。  
そのお  
かげで  
下級生  
は、苦  
労もな  
く登山  
を楽し  
むこと  
が出来  
るとも  
に、上  
級生  
への尊  
敬の念  
を持つ。  
こうして登山を通して、高甫  
の伝統が上級生から下級生へ  
受け継がれていくのだ。  
全校登山の成功のために、  
学校・保護者・地域が一体とな  
って支えている。そうして、毎  
日見上げている山に登り、そ  
の自然を肌で感じることで  
きる全校登山。この体験こそ  
高甫の宝であろう。  
(武田利江)